



ZOOM UP

# 糖尿病重症化予防のために

## - 私達にできることを考える -



研修会の様子

11月12日、ホテル熊本テルサにおいて、熊本県国民健康保険運営協議会会長連絡協議会主催のもと「令和元年度市町村国保運営協議会委員並びに国保主管課長等合同研修会」を開催し、205人が参加した。

本研修会は、各市町村の国保運営協議会委員と行政職員が一堂に会し、効果的・効率的な国保事業の展開と円滑な制度運営について学ぶことを目的に開催している。



原口亮志会長

開会にあたり、主催者を代表して原口亮志会長が国保運営への日頃の支援について感謝を述べるとともに、「生き方、働き方が多様化する少子高齢化社会における基盤は健康であり、健康寿命の更なる延伸を図るためにも予防・健康づくりの推進が必要である。熊本県の現状を踏まえつつ、国が示した重点的に取り組むべき政策等について、本研修会で講師のお二人から御教示いただきたい」と挨拶した。

今年度は3部構成で行われ、内容は次のとおり。

### 講演

演題 「国保の現状と課題」  
講師 熊本県健康福祉部健康局国保・高齢者医療課  
課長 沖 圭一郎 氏

### 説明

「糖尿病の課題を健診・医療のデータでみる」  
熊本県国民健康保険団体連合会保健事業支援課  
保健師 久保田 恭鼓

### 講演

演題 「糖尿病重症化予防のために - 私達にできることを考える -」  
講師 国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院  
糖尿病・内分泌・代謝内科 部長 西田 健朗 氏

初めに熊本県健康福祉部健康局 国保・高齢者医療課長の沖圭一郎氏が「国保の現状と課題」と題して、国保の役割や平成30年度施行の新国保制度の目的及び保険者努力支援制度について説明した。

また、公平性の観点から熊本県内市町村の保険料水準(保険料率)の統一を目指しているが、3つの課題\*があり、今後の状況を踏まえ、統一時期を判断したいと述べた。



熊本県国保・高齢者医療課長  
沖圭一郎氏

\*保険料水準（保険料率）統一の課題

課題
(1) 市町村間の医療費水準に約2倍の開きがある
(2) 市町村ごとの保険料収納率に10%を超える差がある
(3) 受益と負担のバランス（医療機関点在の問題）の理解

引用：研修会資料一部抜粋



保健事業支援課  
久保田保健師

次に、本会保健事業支援課の久保田保健師が、健診・医療のデータを基に熊本県の実態について説明した。

特に、本人のQOLのみならず、医療費へ多大な影響がある糖尿病については、実際の事例を挙げ、重症化の過程と必要な医療費について紹介し、介護予防にも繋がる糖尿病の重症化予防の重要性について述べた。

最後に、国家公務員共済組合連合会熊本中央病院 糖尿病・内分泌・代謝内科部長の西田健朗氏を講師に迎え、「糖尿病重症化予防のために - 私達にできることを考える - 」と題して講演が行われた。

「増え続ける医療財政における負担軽減と個人の幸せを守るためにも、糖尿病に対する理解を深めることが必要」と前置きし、日本における糖尿病診療の現状と糖尿病の発症メカニズムについて説明した。

また、合併症である網膜症と腎症を中心に重症化予防のために行政等が早期介入する意義と介入方法、また、専門医との連携の必要性について述べた。



熊本中央病院  
糖尿病・内分泌・代謝内科  
部長 西田健朗氏

参加者は、個人でできる糖尿病発症と重症化の予防策や、国が示した持続可能な社会保障制度の基盤強化に向け重点的に取り組むべき政策について考える、実りある研修会となった。